

平成17年3月31日

第 15 号

(年一回発行)

京都教育大学
附属京都小学校
東 櫻 同 窓 会

東櫻だより

〒603-8164

京都市北区紫野

東御所田町37

TEL

(075)441-4166~7

発行人 千 玄室会長

題 字 千 玄室会長

印刷 中 西 印刷

「東櫻同窓生のつどい」のお知らせ



最近の母校正面玄関風景



御 挨拶

東櫻同窓会会長 千 玄室

新しい年の春を迎え東櫻同窓会会員の皆様にはお元気で各方面にご活躍のことと存じます。昨年は高温の気候のため台風が二十九号まで発生してたびたび本土に上陸し、京都府北部をはじめ各地に水害をもたらし、又、我が国の新潟中越地区の地震の被害、更には、スマトラ島沖の地震とこれに伴うインド洋沿岸各国への大津波の災害も起りました。被害に会われた皆様に心からお見舞申します。

大きな期待を持って迎えたはずの二十一世紀が、国の内外共に困難な事態が多く生起し、人類全体の将来のために解決が望まれます。

我が国の教育についても、児童生徒の学力向上や人間性の充実の必要性が強く要望されています。

このときにあたり、母校附属京都小学校では、附属京都中学校と共同して「小中一貫教育」の研究

と実践に取り組んで居られ、文部科学省指定の研究開発推進も第二年次を迎え、平成十六年十一月十九日・二十日に「特色ある学校づくり」の研究協議会が行われ、今後一層の充実・発展が期待されます。さて、本年は、三年に一度開催致します「東櫻同窓生のつどい」を行う年にあたります。

平成十七年六月十一日(土)に行う為、常任理事をはじめ、実行委員の方々がその企画と準備を進めて戴いて居りますので、出来るだけ多数の会員の皆様が出席して戴いて有意義な会になることを願って居ります。

今回の会の実行委員は、昭和五十年・五十一年・五十二年卒業という若い世代の方々に努めて戴いて居り、恩師の先生方、先輩の方々の協力によって、本会の一層の充実・発展を祈って居ります。



御 挨拶

学校長 堀内 孜

東櫻同窓会会員の皆様には、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また平素からのご協力、ご支援に御礼申し上げます。

校長に着任いたしましたから三年目となりましたが、副校長の多田先生はじめ教職員に支えられ、また同窓会や育友会、後援会の皆様のご理解とご協力をえて何とか職責を果たしてこられたと感謝いたしております。ここにこの間の取り組みについてご報告するとともに、今後の一層のご理解、ご支援をお願いしたく存じます。

まず第一は、平成十五年度より文部科学省の研究開発指定を受け、「九年制義務教育学校」の設立に向けた京都中学校との共同研究を進めてきたことです。今後、京都

中学校と一体となり九年制義務教育学校設立に向けた取り組みを進めていきたく考えております。第二に、平成十六年度より学級定員

を三十人とし、個に応じた指導体制の確立を企図いたしました。第三としては、校舎の改修に着手でき、北校舎は冷暖房完備の耐震構造とすることができました。東校舎改修も本年度実施の見通しとなっております。第四には、保護者の多大なご支援、ご協力により、指導体制、安全体制の確立に向けた人的手当てを行うことができ、昨年度の後期から非常勤の講師四名と養護教諭一名を増員したことです。大学の法人化で国や大学からの教育改善の支援の見通しが困難となり、また地方で学校の特徴が強く求められている中で、本校独自の判断によるものとご理解いただければ幸いです。

今後、九年制学校設立に向けた組織体制、経営体制の革新が求められています。皆様の一層のご理解を賜われれば幸いに存じます。

附属京都小学校

「東櫻同窓生のつどい」開催に向けて

実行委員長

北村 光一郎

来たる、平成十七年六月十一日

思い出します。

(土)午後四時より河原町御池の京都ホテルオークラにおいて、「東櫻同窓生のつどい」を開催致します。幹事学年制が導入されて三回目となる私達実行委員会の最大の行事です。三年に一度行われる「東櫻同窓生のつどい」ですから、前実行委員会から引き継いで、早三年が過ぎたということになります。

その後は、講演等の内容を何にするかということを中心に話し合いました。同窓生がいいのか、それ以外の方がいいのか、議論はありましたが、基本になっていたのは同窓生がその講演なら是非出席したいという内容にしようということでした。その結果、桂小米朝さんをお招きすることに決定致しました。

私達の実行委員会の最初の仕事は、幹事の三学年を集め、前回の「東櫻同窓生のつどい」の報告号を作成することでした。ちょうど、八月頃から翌年の二月頃までの七ヶ月間ほどだったと思います。印象的だったのは、学年同窓会がかなり活発に行われているんだなと感じたことです。また、それとは対照的に幹事学年の記事が全くなく、今後大丈夫かなと感じたのも

桂小米朝さんは、多芸であらゆる方面で活躍ですが、今回は、落語をご披露いただくことになりました。前回の「東櫻同窓生のつどい」からの三年間、昨年暮のスマトラ沖地震をはじめ暗いニュースばかりが目立つ中、附属小学校の同窓生には桂小米朝さんの世界に取り込まれるさと元氣と笑いを与えていただければと、期待しております。もちろん恒例の福引

き大会も予定されており。多くの方に、お楽しみいただきたく思いますので、例年どおり皆様方からの数多い賞品提供をこの場を借りて、お願い致します。

また、コーラス部が結成され、締めくくりの校歌を含め、すばらしい歌声をお聞かせいただくことも予定しております。「東櫻同窓生のつどい」に新しく誕生したクラブで部員の募集もされておりますので、応援よろしくお願い致します。

今まで、「東櫻同窓生のつどい」というと、小学校全体の同窓会で諸先輩方が行われているというイメージが大きかったと思います。また、学年同窓会というと、各学年によって何度も行われている学年から、一度も行われていない学年まで活動が様々であったと思います。私達三学年も特に積極的な学年ではありませんでした。しかし、振り返ってみると、住所、仕事、家庭等の関係上人数は制限されますが、実行委員会そのものが同窓会という雰囲気の中ここまできたという感じがします。ただ、幹事学年としてまだまだ人数は不

足していますので、多くの参加を願っています。

今回は、日程上も土曜日に行うことにし、ご遠方からのご出席も期待しております。各学年の理事の方には、「東櫻同窓生のつどい」への出席依頼、よろしくお願い致します。特に、次期幹事学年の昭和五十三、五十四、五十五年卒の方には、多数出席していただき、まず自分たちの同窓会を「東櫻同窓生のつどい」に持ち込んでスタートしていただければと思います。

六月十一日京都ホテルオークラ暁雲の間が同窓生で溢れんばかりである風景を夢見て、ご案内の挨拶とさせていただきます。



京都小学校が

大きく変わります

副校長 多田 光利

東櫻同窓会の皆様におかれましては益々お元気でご活躍のことと存じます。また、本校の教育活動に關しまして、多大なるご協力ご支援を頂き大変感謝しております。十五年度の北校舎改修の折には、校舎正面塔屋部分に見事な破風飾りをご寄付いただきありがとうございます。十月になりますと、朝陽がその破風飾りに当たって反射し、新町通を登校してくる児童や生徒を眩しく照らし、道行く人も思わず正面玄関を見上げ、反射している光の源を見付け感心しておられる光景を目にいたします。

昭和十三年に建てられましたこの北校舎ですが、改修は平成十四年度の補正予算により執行されました。当初の予算額より減額となったものの児童にとって快適に学習活動が実施できる環境となりました。どのように改修がなされた



か、実際に学校へ来ていただき見ていただくのが最もよくわかってもらえるのではと思っております。簡単に紙面の許す限り説明させていただきます。

まず、改修の基本方針としましては、大きく次の三点が中心となりました。

建物の耐震性向上及び老朽改修

時代の変遷に応じた設備整備
学校施設の安全管理の整備
と、防災上の安全性向上

そして、特に近年言われております安全管理に關しましては、以下

にあげるような設備とすることを、大学との話し合いで合意しました。

正面玄関に門を設置する。

北校舎側、歩道との境には格子フェンスを設け、外部から容易に進入できないように、また、北自動車門より内側地域を整備し、駐車スペースの確保と平行して児童活動スペースとそうでないスペースの区分を明確にする。

現在の六年生教室が狭くなるが、廊下を六年生教室へ延伸し、その先（北校舎西側）に避難路を確保するため外部階段を付ける。

緊急通報設備として、各教室及び廊下より、教官室、事務室への緊急押しボタン通報装置を設置する。

各教室に内線電話を設置し、防犯対策の一助とする。

他にも、百二十年余りの伝統を考慮し、外壁面のデザイン変化は行わずに、教室南側にベランダがあることを生かし、建物内部に補強部材を配置することや、教室北側、廊下との間に耐震補強をすること。機能面の向上、効率的なス

ペース配置を図るため、教室と教室の間の壁をスライディングウォールにし、教室のスペースに変化を持たせ、多機能的な活用ができるようにすること。二、三階のトイレは、今の時代にあうように洋式中心で一部和式とし、トイレ内の照明も自動点灯、手洗い場も改修し、設置箇所を増やすこと。各教室には、環境も配慮した上でガスによる冷暖房装置を設置し、個別空調方式で部分的使用も可能にすること等も北校舎改修に併せて盛り込まれました。この北校舎の改修と時期を同じくして給食室も改





修され、従来のウエット方式からドライ方式になりました。残念ながら、東校舎の改修は北校舎の改修に続けて実施というところにはなりませんでした。しかし、近い将来実施されるものと思われる。東校舎の改修を待つて、教室等の配置をどうするかも考えてみようと思っています。

次に本校にとっての大きな変化は、京都中学校と共同で進めていきます。「九年制義務教育学校」に向けた研究及び、学校構想です。現代社会に積極的に生きる力を育むための学校教育づくりを念頭に、

「キャリア教育」をその柱とし、小中の九年間を小学校一年生から小学校四年生までを初等部、小学校五年生から中学校一年生（七年生）までを中等部、中学校二年生（八年生）と中学校三年生（九年生）を高等部と区分し、今まで小学校、中学校と別々に進められてきた教科指導における学習内容や学習方法を今一度見直し、重複やギャップをなくすこと。六年生から七年生への移行をなだらかで効果的なものとし、特に五年生、六年生、七年生という時期の子ども達を、小中の教員同士が連続した目で見守り、小中の様々なギャップを少しでも埋め、子ども達が安心感を以てそれぞれの個性を發揮できるようにと考えました。そこで、平成十六年度には中等部の指導体制の充実に向けての第一段階として、

小学校教員一名が、七年生のクラス担当をする。

小学校教員二名が、七年生の教科担当として授業を受け持つ。

中学校教員六名が、五年生、六年生の教科担当として授業



を受け持つ。

という取り組みにも着手いたしました。また、可変的な人数編成による習熟度別学習の取り組みに関する研究におきましては、平成十六年度の一年生より学級定員を三十名とし、習熟度別学習の原則として「単元の中で、ある段階においてその時点での学習内容の理解や習熟の程度の違いに応じて行われる学習」、「コース分けの学習活動においては、指導者は子どもの思いを尊重する。決して指導者の判断で振り分けるといふようなことはしない」ということ等を共通

理解し、専科の教師や講師の先生の援助のもと実施しています。この小中合同の研究は、文部科学省の研究指定を受け、平成十五年、十六年度、十七年度の三年間は少なくとも継続いたします。

なお、小学校独自の取り組みではありませんが、一年生の学級定員を三十名とした他に、本校も十五年度から前期、後期の二期制にいたしました。十六年度後期から教育後援会や育友会をはじめとします保護者の方のご協力により、非常勤の先生四名の増員と、保健室を二人体制とさせていただきます。また、入学に関しましては、募集区域を広げ、左京区、右京区、西京区、上京区、中京区、下京区、東山区、山科区に住民票及び生活の本拠があることとしました。但し、下京区、東山区、山科区に関しては、附属桃山小学校との関係もあり、五条通りより以北（本校所在地側）ということになります。さらに、年度末の転勤等にも対応出来るように、願書提出時ではなく二月の入学手続き時に住民票謄本を提出ということにもしました。



正面



裏面（中庭から見たところ）

正面塔屋に飾りが復活しました

母校附属京都小学校と言えば、三階建ての両翼校舎を従えた、あの堂々とした破風づくりの正面塔屋が目につかびます。木造からこの鉄筋校舎への建て替えは昭和十三年に竣工しました。当時は回りに家も少なく、まさに威風堂々たる姿が遠くからも望まれたそうです。この校舎によく似た建造物に、鴨沂高校（旧府立第一高女）、名古屋市役所等がありますが、当時を表す文化財として高い価値をもつと考えられます。

この破風屋根には、もともと沸き上がる雲様の飾りがついていましたが、いつの間にか抜け落ち、そのままの状態が続いていました。

平成十五年度、母校校舎改修予算が付き、夏すぎから工事が始められました。この工事で正面塔屋部に高い足場が組まれるのを機会に、飾りを復活しようということになり、同窓会として飾りの取り付け一式を寄付させていただきました。

取り付けてしばらくの間はピカピカ輝き、登校の児童生徒が珍しそうに見上げる風景が続いたよう

ですが、今は少し黒づみ落ち着いた色調になっています。

母校の前をお通りの折には是非新調なった飾りをご覧いただきたいと願っております。

飾り取り付けの概要

復元箇所 棟部二か所 妻部四か所（前面・裏面各三か所）

材質 銅

模様の復元 校長室に保管されていた飾りと、校舎全景の古い写真とを参考にして型紙を作成

留め方 プラスティック樽栓に丸形の真鍮ビスで留める

経費 一、二、三、三、五〇〇円
制作者 松重 岡野組



納屋嘉治副会長 追悼の辞

昭和十三年卒 西村 明



故 納屋嘉治副会長

納屋嘉治君、いや幼なじみの私達にとっては今も千嘉治君である。昭和七年四月私達は金木犀の校門をくぐり目出度く附属京都小学校に入學し、昭和十三年三月に卒業する迄六年間の月日を、君を初め三十九名のクラスメートと共に学び共に遊んだ幼き日の憶い出は、今も鮮明に残っています。平井先生、上島先生、柏木先生の面影は今もなつかしく想い出されま

す。君は大変明るく誰とでも好く付き合い、特に運動神経は抜群で、走っても飛んでも泳いでも、又、チームスポーツでも万能選手、中々のスターであった。とにかく全員良く学んだかどうかは別にして、良く遊んだ事は間違いなく、あらゆるスポーツ、特にサッカー・野球には夢中になってやりました。私は何故か千君とは気が合

つて、本当の幼なじみと云うのが、裏千家さんの今日庵は私の家への帰途にあつたので、殆んど毎日の様に千君と共に帰り、一緒に夕方迄遊んで自宅へ帰るのが毎日の日課であり、淡々齋御家元夫人嘉代子奥様、又、附属の二年上級の若宗匠政興さん(千玄室様)、弟さんの己津彦さんと御一緒に、色々な所に連れていって頂き、今思ってもまことに恐れ多い事でした。そして附属を昭和十三年に卒業し、夫々三中、一中と中学校は別れたが、相変わらず毎日の如く仲良く日々を過ごし、まさしく幼なじみの状態を、青年になる迄続けことが出来ました。千君は、同志社大学卒業後、株式会社淡交社を設立され、私も手伝いと云われ、設立手続きの仕事をいささか御一緒させて頂きました。淡交社社長として千君は納屋家を襲興され、茶道文化を中心とする文化出版社として、全国有数の格調の高い出版事業を育てられ、最後の入院となった前日迄毎日、会長として出社されました。又、実兄鵬雲齋御家元(千玄室様)の片腕としての淡交会副会長として、茶道文化の

発展に大きな足跡を残され、又、京都の数多くの公共の諸団体の要職を歴任され、勲三等瑞宝章を初めとする数々の褒章を授与され、京都市特別功労賞も受けておられます。又、東櫻同窓会の副会長として、百周年の記念総会の前後十年間、懇親会々場に淡交社の大会議室を提供して頂く等、数え切れぬ貢献をして頂きました。最後は体調をくずされ、眞美子奥様初め御家族の手厚い御看護の甲斐も無く、昨平成十六年十月十四日大往生を遂げられ、まことに最後迄誰にでも好かれ、又自分の信念を貫かれ、全力投球で絢爛たる人生を終えられた事は、寂寥と共に、尊敬以外の言葉はありません。納屋嘉治君、君とはさよならは云いません。又何時の日か幼な心にかえつて、あの附属の北部の運動場を汗を振りしほり走り廻りましよう。合掌。



同窓生点描

はじめに

附属の卒業生が社会のいろんな分野で頑張っておられるのを見聞きすると、うれしく思いますし、また元気づけられます。次号からは、私の学年にはこんな人がいますよと言ったコーナーを設けたいと思っていますので、是非「学年だより」ともども投稿をお願い申し上げます。

さて、今号では、近年京都新聞の紙上を賑わした人物や出来事を何件かご紹介させていただきます。

ライティングコーディネーター

昭和四十六年卒 内原 智史



灼熱の太陽の下で、乾いたグラウンドと濁いた息づかい、スパイクとボールの交互する音。水が飲めずに熱と砂埃にのどを干涸らびさせ、時折気孔が「ペタッ」と閉じて呼吸が出来なくなる。現在のスポーツの理論では運動中の「水」の摂取は当たり前かも知れませんが、放課後有志で構成された特別の「団員達」の練習にはどこか大人の

世界への体験が感じられた。「水」はいとおしく、あこがれの聖水であり、少々大げさかも知れないがこの

練習の中の「耐えしのぶ」ルールに「男」を磨くという共感が合ったと思えてなりません。今は日常の蛇口からそのような感慨はなかなか生まれてこないものです。

皆さんには耳慣れない「ライティングデザイナー」という職能を身につけるべく東京に居を長くし、独立してからも十年以上の時間が経ちました。個人的に年齢を重ね仕事での関連もあり、生まれ故郷「京都」にも度々訪れるようになります。

一九九四年の「平安遷都一二〇〇年」の折には清水寺、高台寺、銀閣寺、平等院。一九九六年には創建六〇〇年記念事業として金閣寺のライティングでサインを担当し、あらためて京都の文化の重みと京都独自の地域性を垣間見た気がいたします。我々の提案してきました「京都・

光構想」では京都の景観と機能「昼と夜」で二分して近代的都市機能と世界的文化の保存再生を両立させるという大きなテーマを掲げています。テーマは遠大でなかば犬の遠吠え的ではありますが、行動は相反する面があります。それは非常に手間が掛かることまた、この手間をかける中に伝えなくてはならない「本質」が沢山込められていることに今更ながら気づかれます。参道に蠟燭一本設置するにも意外なほどに人力は掛かります。

ただその炎が伝える「力」に我々は着目します。火が燃え続けると言うことは誰かが「守っている」ということ。つまり燃え続けることで「人の関わり、人の意志」がはつきり伝わるという力です。電線ですなげてスイッチ一つで一斉点灯すれば、雨風も含めて大変合理的に仕上がります。少し間違えばその合理化を一過性の利益に還元してしまいそうです。本来その合理化で創り出した我々の余力を創造性や人に対する「おもてなし」に裂くべきだということが少しわかりかけてきたころです。

情報や物を効率的に集めたりさば

いたり出来ても、その内容をしっかり伝えるためのルールは全く変わっていないのではないかと考えます。ここ数年の自信喪失もそうした「波」に翻弄されて、「自分らしさ」や「普通」のスタイルに自信が持てなかつたからか？と時々立ち止まりつつ「京都」を思う今日この頃です。

(平成十六年十一月一日 京都新聞掲載)

歌手

昭和四十六年卒 柱本 めぐみ



柱本(藤田)さんは付属高校を経て京都市立芸術大学

を卒業して以来、日本のみならず、アメリカやヨーロッパでも活躍中の歌手。でも小学生の頃、ピアノストになる事が夢だった彼女は合唱の時はいつも伴奏で、多くの同級生は「歌手」というのは意外に思うらしい。転向したのは高校生の時。ソプラノは女性の領域。「女であることを生かせる仕事」だと思って歌の道を選んだと言っ。

クラシックから現代音楽、またジ

ヤズ、ポップス、シャンソンなど、時代やジャンルにとらわれず様々な歌を歌う一方で、最近では唱歌や童謡も彼女のレパートリーになっていく。特に外国の人たちに日本の歌を紹介する彼女の活動は、新聞紙上でも取り上げられ注目を集めている。

「海外に行くとは日本人であることを改めて意識し、同時に日本文化のすばらしさに気づきます。日本の歌は外国の方にとっても好評なんです。」と話す彼女は、日本人の心ともいえる唱歌を通して、世界中の人と交流を深めてゆく事をひとつのライフワークにしたいと話す。

また、寺の僧侶でもある柱本さんは音楽も宗教も心の糧としてなくてはならないものだという思いから、歌という「商品」を売ることが目的ではなく、微力ではあっても何か人の役立つ仕事をした、と様々な活動を続けている。老人ホームを訪問してのコンサートもそのひとつ。雪深い山の中の学校で、寒さに震えながら歌った事もあるとか。コンサートに出かける機会のない人たちが音楽に心を向けて熱心に聞いて下さると、歌っている自分の方が感動してしまうそうである。

コンサートは、会場の方々と過ごす楽しく幸せな時空を演出する事だと考える柱本さん。歌を愛し続け、できる事ならおばあさんになっても歌い続けたいと静かな意欲を燃やしている。(平成十六年七月十一日 京都新聞掲載)

リコート奏者

昭和五十一年卒 野入 志津子



京都生まれ。附属京都小学校卒業。同志社女子大学音楽科(音楽学専攻)卒業。在学中よりリコートを岡本一朗氏に師事。京都音楽協会賞受賞。同大学卒業後、スイスのバーゼル・スコラ・カントルムに留学、リコートをオイゲン・ドンボア、ホプキンソン・スミスの両氏に、通奏低音をイエスパー・クリステンセン氏に師事。九十一年リスト・ディブロムを得て卒業。以後、ソリスト及び通奏低音奏者として世界各国で活発な演奏活動を続けている。録音では、フィリップスからイ・ムジチ合奏団と競演したヴィヴァルディの「四季(一九九六年シ

ルブ)」が発売されている他、ハルモニア・ムンディ・フランス、シンフォニア等のレーベルからリリース多数。現在ルネ・ヤーコプス率いる、コンチェルト・ヴォカレの常任リコート奏者。バロック・アンサンブル「ラ・スカトラ・デリ・アーギ」メンバー。音楽専門誌「アンドレ」に(演奏家のためのバロック音楽(十七・十八世紀イタリアの音楽通奏低音法を中心に)を一九九七九九年まで二十三回に渡り連載。二〇〇二年初ソロCD「G・Aカステリオーノ」様々な作曲家によるリコート作品集ミラノ「五三六年」をレグルスよりリリース、各方面より好評を得る。現在オランダ在住、ヨーロッパを活動の拠点として活躍している。近々帰国コンサートの予定。(平成十四年十一月十一日 京都新聞掲載)

志波む桜記念碑の清掃

昭和二十三・二十四年卒業生

賀茂川出雲路橋の西詰に古びた石碑がひっそりと建っている。この碑は日露戦争の終戦後、京都を代表する賀茂川を美しくしようと、師範学校と附属小学校の職員・生徒・児童



がお金を出し合い、自らの手で上賀茂神社からの出町柳までの賀茂川の堤防に桜の苗木を植付けた記念

碑なのです。平成十五年度の卒業式で、同窓会代表の釈 博司氏(昭和二十三年卒)が祝辞の中でこのことに触れ、「君たちも大きな夢、目標を持って生きて行って欲しい」旨、後輩を激励されたのを機に、こうしたいわれのある記念碑を雨風に打たれるままにしておくのは申し訳ないと言うことで、昭和二十三・二十四年卒の十人が満開の櫻の下に集い、回りの草を刈ったり、記念碑を丁寧に洗い清めたりしました。そのあと花の下で一献を酌み交わしたのは当然のなり行きでした。

これからも四月になれば記念碑の清掃かたがた集まるうではないかと言うことで散会しましたが、会員のみなさん、どうぞ櫻が満開のころ、出雲路橋の西詰めをちよっと覗いてみてください。(平成十五年四月五日 京都新聞掲載)

年次だより

昭和七年卒

七互会（平成十五年度）

十一月五日の昼前、JR山科駅に男性四名女性五名が集合、遠く船橋より木村ノブさんが又久しぶりに後藤紀子さんが元気な姿を見せ、車で洛東迎賓館へ。同館は国務大臣をされた大野木秀次郎の旧



邸で、オープンしたばかりのゆったりした別世界です。旬の仏蘭西料理を味わいつつ時を忘れた半日でした。来年はお互に八十五才。長年の七互会も最終回を迎え、それまで元気に頑張るつと再会を約し、胡麻豆腐を土産に四時頃帰路につきました。写真右より三品、木村、大津山、島田、広田、米沢、山口、船越、後藤の諸兄弟。

（広田長三郎）

七互会（平成十六年度）

八十路の半ばとなり親しかった旧友も減り自らも次第に物事に大義となつて来ました。長年続けた七互会も不本意ながら今回で終止符を打つことになりました。十月十五日午前、思い出深い母校に集まりました。遠く東北より岡田友治君、東京より岡田花子さん（旧姓沢田さん）が久しぶりの参加でした。男子五名女子五名を金木犀満開の玄関が迎えてくれました。多田副校長の懇切なご案内で構内

を一巡、私達の頃と違った立派な施設に目を眩りました。午後は席を移して、料亭「菊水」で三品春枝さんも合流、京懐石を賞味しながら楽しかった思い出話を時を忘れました。四時頃有終の美を飾りつつ散会しました。

別れ際、「七互会は無くなってもお互に元気に何時迄も交流を続けよう」と話し合いました。写真右より広田、米沢、岡田、木村、岡田、多田先生、大津山、吉岡、



島田、山口、船越の諸兄弟。
（広田長三郎・船越 滋）
昭和八年卒

八桜会（平成十五年度）

秋、十月八日、東京組のお世話で、丸ノ内プリンスホテルにて開催。七名出席。永年名幹事としてお世話下さった、金戸茂兄、宮本鞠子姉が昨年相ついで他界され、淋しくなりました。今年は秋に京都で開催の予定です。（前窪 敏）



昭和九年卒

卒業七十周年記念クラス会（昭九会）

「頭に霜をおき眼に霞棚引き足は千鳥の年頃になりました。あの金木犀の門を出て七十年。おどろきです。昨今会員から色々の事情をお聞きするので今回でお開きにしたいと思います。」安原さんの案内通り毎年恒例のクラス会を本年で最後とし六月六日京都センチュリーホテルで記念会を持ちました。東京方面から馳せつけられた六名阪神からの三名共々二十名が



集りました。最初は名前も思い出せない方もありましたが、物故の恩師級友に黙祷を捧げた後、自己紹介や来歴等話す中、幼顔が忽ち甦り「嵐亭」の懐石料理を頂き乍ら話が弾み楽しい時を過ぎました。いつまでも名残は盡きませんでした。抱きつつ三時頃散会しました。

（昭九会当番 山本・安原・中西）

昭和十一年卒

壽一会（平成十五年度）

我々、昭和十一年卒の同窓会（壽一会）は昭和五十一年より毎年秋に開催し続けているが、今年（平成十五年）は十月十日築城四〇〇年の二条城と江戸時代初期建の大名屋敷二条陣屋のいずれかの見学会、京都国際ホテル京料理「堀川」の懇親会の二部構成で開催したところ、見学会には十一名（二条城六名二条陣屋五名）の参加、懇親会には見学参加者を含め全員二十一名（男子十名女子十一名）が参集しました。今年殆どが「傘壽」でしたが皆さん至って元気で、おいしい京料理をいただきかつ飲みながら談笑、二年ぶり出

席七名からは近況が報告され皆さん米寿まで頑張りうの声が上がりました。こうして和気相合のうちに予定の三時間も瞬く間に過ぎました。なお、話し足りないで喫茶室に集い語らいが続きようやく四時過ぎ再会を約し解散しました。

（組谷 脩）



壽一会（平成十六年度）

昭和十一年卒同窓会「寿一会」は昭和五十一年より毎年秋欠かさず集いを続けています。今年（十六年）は会名に則とり十一月一日

に京都ホテルオークラの京料理「入船」に男女十名づつ集いました。台風や地震の直後で都合を案じましたが例年並の出席で盛会となりました。昼食会では男女交互に着席各自の健康保持や生き甲斐への取り組等々を元気に喋りまくり賑やかに二時間を楽しみました。

席上東京鳥山一様より俳歴三十年の集大成本年刊行の句集「さくら」を頂戴しご厚意を謝すと共に生涯学習意欲に敬意の拍手を送りました。食後全員喫茶「レック



コート」に移り男女別に席をとり同性同志の談笑が一際賑やかに一時間を過ごし再会を約し解散しました。齡八十を越えた同窓の集いながら皆さん矍鑠この会は続くとの確信を得たことを報告します。

(羽田 董)

昭和十四年卒

新櫻会：毎年一回開催

平成十五年六月四日(喜寿祝)皆でしよう!の合言葉の基、多く友が協力し、京都ライオンホテルにて催しました。遠方からの参加も多く出席者二十九名 六割。謡、ピアノ、独唱等の芸を披露し皆で合唱もしました。突然クラス員から、幹事の福井叔子さんに対して花束贈呈の申し出があり、何時もお世話になってる事に感謝しました。皆も喜寿記念に、ラジオ付時計と菓子を買いました。

平成十六年五月十四日

ホテル・ルビノ京都堀川にて催しました。出席者二十四名 五割。会の幹事で、医師であり文化人である四方寿朗さんが豪華な「写真集丹後由良」を発刊され、クラス

員にも贈呈されました。そのお礼をこの会でしました。各人の近況報告の後、菅野幹事から会の継続を傘寿までとし、その後は自由な会にしようという提案がありました。

(坂本誠之)

昭和十五年卒

附友会(平成十五年度)

平成十五年十月四日、京都ホテルで開催しました。出席者は二十七名で、生存者約五十名の学年としては、かなりの盛会であったと思います。卒業して六十余年、最近は毎年集まっています。この会の雰囲気は、いつも温かく和やかで、しかも気品があります。これは、友人や先生たちと一緒に過ごした附属小学校という教育環境の中で、自然に培われた体質のようなものが、この歳になってもまだ残っているためかと思えます。

宴会の前に、同級生の二人の眼科医が、「老人と眼」というテーマで、約三十分間話しをしてくださいました。次いで宴会に移り、懐旧談や近況報告の中で、前述の眼科医の一人が沖繩の宮古島に転居し、眼科医のいない離島で開業し

て余生を送り、クラス会を楽しみに京都に来る予定という話に、感嘆しました。二次会でも、話は連綿と尽きなかったのですが、来年度の再会を約して散会しました。

(谷川・佐々木・森本)

附友会(平成十六年度)

平成十六年度の附友会は十月二十三日に、ホテルフジタ京都の藤の間で開催しました。折悪しく台風二十三号の襲来で交通と天候を心配しましたが、遠くからも、また、洪水に見舞われました舞鶴からは、朝一番の電車で乗り継ぎを繰り返して六時間かけて参加していただき、十二時からの受付と同時に次々と集まり、開会の十二時半には出席の二十一名が顔を揃えることができ、当番幹事は感激でした。幹事の挨拶後、徳島より参加の盛兄より、七十才以上の健康な男女のデータのプリントを基に挿話を聞かせて戴き、喜寿を迎えて元気に会合に出席できる喜びをともしました。学校に通っていた当時、祝日には必ず貰った親玉堂の紅白饅頭も、喜寿の記念に幹事が出席者に配り喜んで貰えま

した。東櫻同窓会より名簿の確認もご依頼あり、全員で確かめ合いつつ、お互いの情報、近況を話し合い時間を忘れて語り合いました。終りに記念写真撮り、名残を惜しみつつ再開を約して三時過ぎに散会しました。(高橋治一)



昭和十六年卒

菊桜会

喜寿を迎えた私達は、平成十五年十一月にホテルプリンセス入京で男子五名、女子七名の方が参加

されてクラス会をいたしました。皆様の齢にしては若々しいお姿には感心しましたし、又七十路後半とは思えぬ生き生きとした前向きな近況報告には感動しました。歓談は盡きず、又来年もお元気でね。」と約して散会しました。

(井上佳子)



昭和十七年卒

旨味会

我々のクラスは巳年と午年生まれに因んで旨味会と名付けて毎年

会合を持っています。今年は十月八日黄檗山万福寺の見学と普茶料理賞味を楽しみました。十五名の集まりで例年より少なめでしたが、特に残念だったのは楽しみにして皆勤だった瀧上先生が坐骨神経痛のため欠席されたことです。先生の人生最初の担任クラスで可愛がって頂いていただけに残念で、一同でご回復と来年のご出席を祈念しました。

当日は雨でしたが、宝蔵院の一切経版木の見学講話と普茶料理を賞味しました。一切経とは仏教全部の経文であり、世界で韓国と二部あるだけの版木でその量は膨大でした。鉄眼和尚の版木作成発願から完成までの懸命の努力と精進の経緯は感銘を与えるものでした。普茶料理は日頃贅沢に慣れた我々には新鮮で、会話も弾み楽しい一日でした。只、写真撮影を忘れたのは幹事の失態でした。

(幹事 高橋 淳・鈴木昭子)

昭和十八年卒

紫桜会(平成十五年度)

九月二十八日からすま京都ホテルで昭和十八年卒第六十一回紫桜

会を開催致しました。お便りを拝見致しますと体調の優れぬ方もずいぶん多くなったようにお聞きしましたが、今年は関東、北陸等遠方からの参加もあり泉美穂子先生をお迎えして二十六名が集まり午後一時を会食と歓談にすぎし一年後の再会を約して散会致しました。簡単ですが御報告まで。

(幹事代表 村岡 暁)



紫桜会(平成十六年度)

今年の京都はNHK大河ドラマ

「新撰組」ブームで明治維新の時代に戻った様です。街角には「誠」の隊旗や浅葱色の羽織で闊歩する若者がたむろしています。

昭和十八年卒七十五歳中心の私達「紫桜会」も六十二周年第十七回目の同窓会を初秋十月三日(日)「からすま京都ホテル」で開催しました。

恩師も次々と他界されましたが泉(大釜)先生が健在で私達の唯一のシンボルとなっています。こ



こ何回か同じ会場となっていて、今年には雰囲気を一転して窓から一杯の陽光の射す明るいレストで集いました。

最近では毎年開催する（先がそろそろ短いので）ことになりましたが、出席率もよく待遠しい同窓会となつて来ています。

カラオケの末だない戦後若かつたころ流行した「歌声喫茶」を再現したアトラクションを行いました。懐かしい思いで、心が和みました。幹事 石束哲男・中岡嘉弘・辻佳子・難波照代（中岡嘉弘）

昭和二十一年卒

卒寿、米寿、古希
トリプル記念の同窓会

二年ごとに再会のめぐつてくる附属小二十一年卒同窓会。今年には恩師の青池先生が九十歳の卒寿、滝上先生が八十八歳の米寿、そして私達は古希七十歳を迎えたトリプル記念の同窓会となりました。平成十六年六月五日、河原町御池の京都ホテルオークラに集った同窓生三十四名は、青池先生を囲んで歓談のひとつを過ぎました。

とにかくこうして、元気で集まることができるのが最高と、六十年前の思い出話に時のたつのも忘れました。

「永い教職生活の中で、小学校の卒業組を担当したのはこの一クラスだけ、そのため特に君達には特別な思い出がある」という青池先生のお話を聞き、二年後、更にその次もと、この会を是非続けていきたいと思いました。

こうして記念の同窓会も、又の再会を約して散会となりました。

昭和二十一年卒

いぬい会（第十三回例会）

秋晴れの十月三十日、ばるるプラザ京都で本年古希の例会を持ちました。残念ながら恩師の出席は得られませんでした。遠方からの人も含め二十八名が集まり楽しい一刻を過ごしました。古希記念品として、出席者に会員樋口哲子さんのすてきな画文集「旅で見た人」を配布、翌日には古希特別企画の「高雄紅葉狩」に有志八名が参加、お互いに来年の再会を約した次第です。（大西泰之）



昭和二十三年卒

昭和二十三年附属小学校卒、昭和二十六年附属中学校卒、同窓会

当日、ゴルフ組八名は比良GCで快晴の下、早朝よりラウンドを楽しんだ。ベスグロは往年の工

一ス川瀬順二氏の八十一である。定刻五時にはゴルフ組も合流し

参加予定者全員が揃い、附三会は和やかな雰囲気が始まった。最初に藤原（鈴野）女史が、恩師吉岡薫二郎先生（九十一歳、脳硬塞で倒れられ闘病中）から頂いた「デ

イサービスの仲間」二十一首のコンビを全員に配り、六番までを読み上げながら先生のご近況を紹介した。それにしても、吉岡先生の達筆振りには、一同、感嘆の声頻りであった。

次いで、一人づつ近況報告を行ったが、近親者の介護に寧日なき方々を含めて、夫々が人生の第一、第三ステージでそれなりに楽しく、前向きに日々を過ごしており、例えば

ゴルフの練習をプロに付いて本格的に始めた（駒井輝生氏）

ピアノを習い始め、そこそのレベルに達したので、次回はお披露目したい（岡本誠司氏）

打ち込む趣味も無く、結局、続けられる限りマイペースで仕事（特許関係の弁護士）をする（中島和雄氏）

船から降りたが、今は知悉している神戸港で水先案内をしている（小山 敬氏）等々。

一同、先ずは、良かった、良かったの感慨で終始し、八時半、次回二年後の附三会は古希を迎えるの七十歳記念大会として、出来るだけ多くの参加者を募り、盛大に

行つ事を約し、賑やかに散会した。
日時 十五年十月十八日午後五時
場所 あみ定 琵琶湖瀬田川唐橋
会費 一万円
参加者 三十四名

(男二十四、女十、京都圏二十七、
東京圏七)

尚、出欠の返信用紙を使ったアンケート(回答数七十)によると、際立つたのは開催場所は京都で九十七%、曜日は平日が首位で六十七%であった。

附三会の構成員は百二十名(男七十三、女四十七)だったが、天国への移籍者十六名(男十三、女三)住所不明者六名(女四、男二)で、現在九十八名である。所在地は京都圏六十五名、東京圏三十名、外国三名で、今回は外国在の三名を除き、九十五名に案内状を送付した。

(幹事 白井光郎・中近敬一郎)

昭和二十六年卒

第八回同期会

終戦の年に小学校に入学し、昭和二十九年に中学を卒業した者の

第八回同期会がホテルプリンセス京都で開催された。一九八四年が第一回であったが、最近は二年ピッチに九月の第二土曜日と定めている。当日は五人の中学校の恩師(広瀬、吉川、若木、有安、畑井各先生)のご臨席をいただき、参加者六十余名で盛大に行われた。

司会の方から、今年が中学卒業後五十周年の節目の年、と言う説明が有ったが、生物の有安先生とは正に五十年振りの再会で、師範を出て二十一歳で教壇に立つたとお話を聞き、意欲溢れる若々しい先生方に絞られた当時を思い出し、「しじら」漢字テストを含め、苦かった良薬を思い出した事でした。なお、残念な事に小学校(は組)四、五年生のご担任だった寛田知義先生がこの八月に鬼籍に入られた事を報告させて頂きます。

(中野拓治)

昭和二十八年卒

「磨野学級(る組)クラス会」を昨年に続き、平成十五年十月二十六日正午より京都ロイヤルホテルにて十四名の参加を頂き楽しいひと時を過ごすことができました

た。一時、体調を崩されていた磨野先生もお元気に回復され、参加者一同五十年前に戻って懐かしい話で盛り上がりつつありました。来年も十月に再開を約して解散となりました。

平成十五年十月二十六日午後六時より一泊での同期会を大津市の琵琶湖ホテルにて開催しました。日帰りを含めて四十六名の参加を頂き、散会まで賑やかに話しが弾んでいきました。翌日は遊覧船・ミシガンでの琵琶湖クルージングを楽しみました。恩師の先生方は五

年ごとに御招待申し上げることになっていますので今回はご連絡しておりません。(海老原和夫)

昭和二十九年卒

来年はノモ 会えますように



六月五日(土)京都ライオンホテルに、恩師二人、男性二十八人女性十五人の計四十五人が集まりました。吉川先生の乾杯発声の後、ライオンご自慢の和食を食べながら、順にマイクを回し、二分間スピーチ。短い人あり長い人ありで、幹事はヒヤヒヤしましたが、これもまた楽し。最後に畑井先生が十二期の同窓会から駆けつけて下さり、初めて頂きました。その後、岡田庄平氏から自作の「ぐいのみ」のプレゼント! 思いがけない御土産にみんなニコニコ。あつという間の二時間半。最後に来年の再会を期し、御開きとなりました。今回は二次会は企画しませんでした。今回は、時間に余裕のある向きは三々五々、歓談をされた様子。後日、報告書と名簿、写真を御送りしました。来年の幹事は竹原清治さん・山田(稲垣)美弥子さん。

(岡節子)



昭和三十三年卒

メールの輪、環、和：

私達三十三年卒も人生節目の還暦を目前にして昔の友を懐かしく思う歳になりました。同じ学び舎に育った同級生がますます友情・友好の輪を広げ、これからの人生を心豊かに過ごすべく、二年前からメール交換グループ（gouss33）を開設しています。

現在のメンバーは男性六名、女性九名で、各会員の近況や日常の出来事、感想、趣味の話題などを楽しくメール交換しています。活発な関東地区の同窓会の様子や、北海道、アメリカなど遠方の友人から便りが届くとたいへん嬉しいものです。このメールグループは同級生ならお気軽に参加できますので、以下サイトから「このグループに参加」のボタンをクリックして手続を行って下さい。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/fouou-s33/>

同級生の皆様のご参加をお待ちしています。
 （畑 和彦）

会 員 通 信

学童蹴球大会

昭和十一年卒 迫田 周一

大阪毎日新聞社（当時）の後援で京都学童蹴球大学 サッカーの少年大会 が、夏休みと冬休みの二回開催された。私の記憶による

と昭和十一年度まで続いたと思う。私は六年生の時、昭和十年の夏、冬の大会にフォアードのレフトウィングで出場した。参加校は、太秦、川岡、乙訓、淳和小学校と私たちの師範附属小学校であった。大崎、水戸、迫田の三先生に引率されて太秦小学校グラウンドに赴いた。

当時は現在のような丁寧な指導もなく、師範学校蹴球部の練習をみて夫々思うがままに動いたものであった。太秦小学校と決勝戦を戦うことになったが、太秦には「ハイ」という名の韓国人の大型センターフォアードがいたが、我々には田口、八木という強力な

フルバックがよく防いで一〇で勝った。試合前に疲労回復といって大崎先生が砂糖水をのませて下さったのも幸いしたかもしれない。

田口主将が優勝カップを持ち、八木、新、亀山、木原、田中、佐々木、市川、前田、岡、私ら選手十一名と大崎、水戸、迫田の諸先生とが入ってとった記念写真が残っている。

所が冬休みの岡崎グラウンドの大会では、第一戦に太秦とあたり奮闘空しく〇一で敗れてしまった。ガツカリした姿をかわいそうだと思われたのか、一級下の長田寛司君（通称デブ寛）の父君で動物園長をされていたが、閉店後動物園に招待して下さい、猛獣に餌をやる所などを見せて下さった。

註一 当時サッカーのことを蹴球といった。

註二 試合は十一名以下でやり、途中交替はおろか、負傷退場しても交替要因を入れることは出来なかった。

『櫻の実会』のこと 大石 純

大正七年四月、時の附属小学校内に設けられ昭和十八年三月に廃止されるまで二十五年間存続していた第二教室の出身者が、昭和十九年一月、互いの連携を密にし親睦を図る目的で設立したのが『櫻の実会』である。発足後暫くしての敗戦とその後の世情混乱により苦難の道を歩む一時期はあったが、それを乗り越えて活動は年々活発になり今日に到っている。主な事業は、会員による講演と懇親を主にした集会の隔年ごとの開催、会誌「櫻の実」の隔年ごとの発刊、数年に一度の会員名簿の発刊（訂正版は適時）などである。この五月には《陪審制のアメリカの裁判に出廷して》と題する時宜を得た講演会を持った。この会の会員は減りこそすれ増えることはない。会の終焉をどのような貌で迎えるかが今後の大きな課題である。

（大石純氏は平成十六年四月二十九日、瑞全中綬章を受章されました。編集部）

東部東櫻同窓会総会 昭和二十五年卒 坂田 愷

二〇〇四年六月五日（土）東部東櫻同窓会総会が東京新宿の小田急ホテルセンチュリー・サザンタワーで開催されました。総会には昭和三年小学校卒業の最高齢者福田花子さんをはじめ八十数名の同窓生が集まりました。京都の東櫻同窓会本部からは迫田元小学校副校長がお見えになり、祝辞と附属京都小学校の現状をお話いただきました。

また、大原美術館理事長である大原謙一郎氏（昭和二十八年小卒）の「大原美術館はこう考える」世界と日本と文化についてと題する貴重な講演があり、その後、懇親会がありました。懇親会では前回総会に続いてジャンケンゲームが行われ、会場は盛り上がりました。老いも若きも大いにはしゃいで楽しいひと時を過ごしました。次回、総会は再来年の二〇〇六年に開催される予定です。

本年四月、「東部東櫻だより」第一号を発刊しました。会員相互の理解を深めるよすがになればと願っています。

名簿委員会から

会員名簿は同窓会の生命線であると言われていますが、私たち東櫻同窓会でも常に新しい、より正確な名簿を目指して努力を重ねているところです。

総会を六月十一日に、また会員名簿の改訂を晩秋に控え、昨秋から情報集めに着手いたしました。十六年九月二十五日（日）、実行委員会を中心に十人ほどが集まり、七十三学年に及ぶ名簿委員さんに、「改訂作業のお願い状」「年次の理事名の確認表」「年次の会員名簿」を送らせていただきました。

一月末現在、理事の確認表・訂正名簿が四十学年分帰ってきております。これは前回に比べ各段の増加であり、多くの委員さんがこの作業の大切さを理解いただけたのだと心よりうれしく存じ、心よりお礼申し上げます。

今まで空白だった住所欄がほとんど赤インクで埋まっていくのを見て、年次の名簿委員さんがすぐきめ細かく調べて下さったのだ

など実感しております。これからもどうかよろしくお願い申し上げます。

東櫻だよりの発送は今回の名簿情報で行いますが、会員名簿の訂正版（二〇〇七版）は、総会前後に集まる情報も含めて編集し、十七年十一月ごろに発行する予定です。ご希望の方は振込用紙を通してお申し込みください。

価格二、〇〇〇円（送料込）
名簿の整理を進めて感じたことですが、

- 一 市町村合併による市名の変更
- 二 電話番号の区切り
- 三 特に京都市内における町名表示（上がる・下がるの消去）
- 四 マンション名の有無

等については、学年の別により、また訂正分か否かにより、必ずしも統一できていません。改訂版発行までに少しでも整合性をもたせたものにしていきたいと考えておりますのでご期待ください。



女声コーラス発足!

昭和三十四年卒 竹村 正子

「皆でコーラスしよう!」

これが始まりでした。

平成十五年秋、三年ぶり附小附中合同の同期会での出来事。二次会の席、カラオケとダンスをバツクに盛り上がったお喋りの中、「コーラスグループを作って皆で大いに楽しもう」という事になりました。指揮・指導は同期の桑山君。

団員募集や様々な準備も、自発的且つ積極的、まさに附属的。十六年四月から月二回妙心寺北袋中庵ホールでレッスンを開始。団名は東櫻同窓会常任理事会にご相談し【アンサンブル東櫻】と決定。数十年ぶりに五線譜を手にする十余名が、や が少なくセンスのいい曲を選び、失敗も笑いでごまかしながらスケールの大きいスマートなコーラスを目指して楽しくレッスンに励んでいます。

同窓生・PTAの参加も大歓迎!歌の好きな方は(〇六 七二五 七七〇〇竹村宅)宛にご連絡ください。但し女声のみ。

恩師のご消息

岩城 敏子先生

平成十四年二月ご逝去

昭和四年から八年まで附属校にご勤務

奥田 見隆先生

平成十五年四月ご逝去

昭和十六年から二十一年まで附属校にご勤務

上島 志朗先生

平成十六年十二月ご逝去

昭和九年から十七年まで附属校にご勤務

浜口 明先生

平成十五年十二月ご逝去

昭和十八年から二十三年まで附属校にご勤務

箕田 知義先生

平成十六年八月ご逝去

昭和二十三年から二十五年まで附属校にご勤務

付属校にご勤務

付属校にご勤務

付属校にご勤務

東櫻同窓会会計報告

自 平成14年4月1日
至 平成16年9月30日

(金額単位円)

【収入の部】

前回よりの繰越金	10,269,890
名簿・会費収入	5,600,720
受 取 利 息	3,065
合 計	15,873,675

【支出の部】

前回總會経費	795,278
東櫻だより作成・発送費 (第13号、14号)	2,486,463
名簿作成・発送費	1,346,083
120周年記念寄贈費	1,808,100
校舎破風復原寄贈費	1,333,500
通信・郵送費	85,945
委員会活動費	155,361
事務費雑費	73,818
次回への繰越金	7,789,127
合 計	15,873,675

会計担当 野村英男 (昭和17年卒)

編 集 後 記

前号十四号の「東櫻同窓生のつどい」報告号の東櫻だより発行からはじまりました、幹事三学年の仕事も最終のつどい本番に向けてラストスパートに入りました。

今号は「活躍する同窓生」のコーナーを「同窓生点描」と改め、附属に関わりのある、様々な分野で活動されている方を少しでも多く紹介できるようにしてみました。好評なら、次期編集委員の方にも継続して頂きたいと思えます。

他には、多数の年次だよりを寄稿して頂き、諸先輩方と恩師の先生が元気に集われている様子が写真でも伝わってきました。また多田副校長に紹介して頂いていますように、附属京都小学校も校舎の改修等色々な面で変革の時期にあるようです。

我々が担当する東櫻だよりは今号で終わり、十六、十七号は次期幹事学年が担当になります。二号に亘り、寄稿、編集にご尽力賜りました皆様、誠にありがとうございました。お礼申しますと共に編集を締めくくりたいと思えます。

桂 小米朝 (かつら こべいちょう) 師 プロフィール

生年月日 昭和33年12月20日

出身地 大阪市南区 (就学時代は兵庫県尼崎市)

最終学歴 関西学院大学 文学部 卒業

芸 歴 昭和53年8月 父である 桂 米朝 に入門
10月 京都 金比羅会館「桂米朝落語研究会」にて初舞台

平成4年 大阪府民劇場賞奨励賞 受賞

平成15年9月~16年3月 芸能生活25周年記念「桂小米朝 落語の世界」を全国八ヶ所にて開催

落語以外の舞台では

平成5年8月 舞台「浪花・恋もめん」名鉄ホール

6年11月 オペらくご「背広屋の利発な結婚」アルカニックホール・オクト

7年11月 舞台「ザ・近松」近鉄劇場

9年6月 舞台「海道一の男たち」南座

16年9月 舞台 川中美幸特別公演「寄席囃子おもしろい女」新歌舞伎座 他多数出演

映像では
NHKドラマ「心はいつもラムネ色」
「和っこの金メダル」
「てるてる家族」
NHK教育 「ドイツ語会話」
東宝映画 「細雪」「おはん」などに出演

その他
相愛大学音楽学部 客員教授

趣 味 ピアノを弾くこと、絵を描くこと、古代史・国際経済の研究

ス ポ ー ツ サッカー、陸上競技

本人から一言 落語家でありながら、ミュージカルやクラシック音楽に凝っている。
特にモーツァルト熱は重症で、自分をモーツァルトの生まれ変わりだと信じている。
各地でオーケストラと競演し、オペラと上方落語の合体「オペらくご」という新分野も確立した。幅広い趣味を謳歌しつつも、古典落語に対しては純粋な心で向き合っている。
「王道を見失わずに歩む」が信条。

レギュラー ABCラジオ「ザ・シンフォニーホールアワー」
(毎週土曜 7:05 - 7:55)

執 筆 朝日新聞「勝手に関西世界遺産」

C D 東芝EMI「桂 小米朝 落語の世界」
(第1集~第5集)

所 属 株式会社 米朝事務所
〒530 - 0047 大阪市北区西天満5 - 9 - 16 - 201
TEL 06 - 6365 - 8281(代)

桂 ちようば プロフィール

最終学歴 阪南大学国際コミュニケーション学部卒業

芸 歴 H13年10月/桂ざこばに入門
H14年3月/箕面「桂ざこばの会」にて初舞台

レギュラー 毎日放送「知ってた？」リポーター

東櫻同窓生のつどいのご案内

3年に一度の東櫻同窓生のつどいを、下記の要領で行います。今回は桂小米朝氏をお招きし、古典落語を存分に楽しんでいただきたいと思いますと考えております。

恩師の先生方や旧友との親交を暖め、思い出に残る一日としていただければ、幸甚に存じます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時 / 平成17年6月11日(土) 午後4時40分より
(受付開始は午後4時00分)

場 所 / 京都ホテルオークラ 4階 暁雲の間
京都市中京区河原町御池北東角 電話(075)211-5111

式次第 / ・同窓会総会
・落語鑑賞
演目は当日のお楽しみ
出演: 桂 ちょうば
桂 小米朝
・懇親会

福引き など

会 費 / 一 般 10,000円
敬老会員 7,000円
(昭和14年3月以前に卒業された方)
大学生以下 7,000円

ご出席の方は同封のはがき(出席回答票)にてお知らせ下さい。
準備の都合上、5月8日(日)までにご投函頂きますようお願い
申し上げます。